

セキュア VM を実現するソフトウェア「BitVisor」の開発初期版を公開

国立大学法人 筑波大学(学長:岩崎洋一)は、高セキュリティ機能を持った次世代 OS 環境「セキュア VM」を実現するソフトウェアである「BitVisor」の開発初期版の公開を 3 月 19 日より開始しました。

BitVisor とは

BitVisor とは、筑波大学を中心とするセキュア VM プロジェクトにおいて開発中の仮想マシンモニタ(VMM*1)と呼ばれるソフトウェアです。BitVisor では、クライアント PC における情報漏洩を防止するために、仮想マシン(VM*2)の技術を利用して Windows*3 や Linux 等の OS からは独立した形でセキュリティ機能を実現します。具体的には、ストレージやネットワークの暗号化、ID 管理などの機能を仮想マシンで実現することにより、PC や USB メモリの盗難や紛失、ウィルス感染等による情報漏洩を防止します。

セキュア VM プロジェクトは現在、文部科学省の平成 18 年度科学技術振興調整費*4 で採択された研究課題「高セキュ

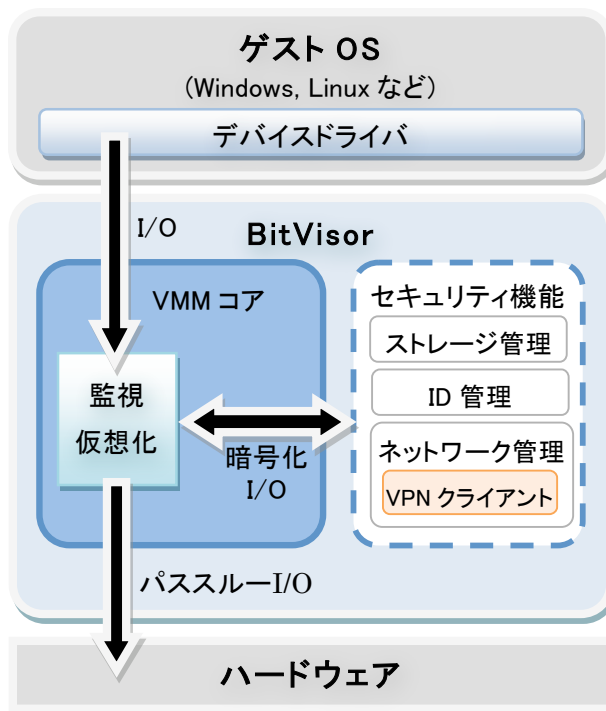


図 1: BitVisor 概要

リティ機能を実現する次世代 OS 環境の開発」(代表:加藤和彦 システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻 教授)として実施されています。今回は、同プロジェクトの成果公表の一貫として、BitVisor の開発初期版をオープンソースソフトウェアとして公開します。公開する内容は、以下の通りです。

公開サイト

<http://www.securevm.org/> (セキュア VM プロジェクトホームページ)

公開ソフトウェア

1. VMM コアのバイナリ及びソースコード
2. VPN クライアント(IPv4, IPv6 対応 IPsec 機能)のソースコード

